かちまいスポーツ
記録の速報は▼kachimai.mobi
写真がほしい▼0120-25-9410

ドラフト注目 河村（白樺学園高出）力投

大学野球道王座決定戦 自己最速タイ150キロ

白樺学園高出身のドラフト候補、河村説人は最速150キロをマークし、7回10奪三振の力投

【苫小牧】大学野球の札幌連盟と道連盟の覇者が秋の頂点を争う道地区王座決定戦が12日、とましんスタジアムで行われ、今年のドラフト候補の星槎道都大エース、河村説人（4年＝白樺学園高出）が自己最速タイの150キロをマークし7回を3安打2失点10奪三振の力投を見せた。同候補で5回10奪三振の苫小牧駒大の伊藤大海（4年＝駒大苫小牧高出）と投げ合いを演じ、試合は星槎道都大が最終回に追いつき、規定により3―3で引き分けた。十勝関係選手は、星槎道都大の小笠原悠真（3年＝白樺学園高出）が9番・遊撃手で先発出場。苫小牧駒大の竹澤昌輝（4年＝帯農高出）は最終回、3人の打者に投げた。明治神宮大会中止に伴いキャンセルされた、道代表決定戦の代替試合として行われた。（岡部彰広）

◇道王座決定戦
苫小牧駒大（道連盟）000002010―3
星槎道都大（札幌連盟）011000001―3
（規定により九回引き分け）
【苫】伊藤、後藤、竹澤、安達―小松
【星】河村説、伊東、小野寺―松田彪
▽本塁打＝松田彪（星）
▽二塁打＝伊藤（苫）川崎、伊藤秀（星）

苫小牧駒大の伊藤と対決 投球「100点満点」

豪腕対決は引き分けに終わった。

全国で活躍する場は失われたが、ライバルの存在が闘志に火を付けた。相手はドラフト1位指名の呼び声高い苫小牧駒大の右腕・伊藤大海。互いに東都連盟の大学を中退して北海道の大学に入学し直し、最後の最後に迎えた初の対決の機会だった。「境遇が同じ。刺激を受けた存在だった。特別な気持ちで試合に入った」。伊藤が初回に150キロを記録して三振を奪えば、河村も同じく150キロをマーク。フォークボールの感覚がしっくりこなかったが、130キロ台半ばのカットボールがさえた。五回まで四球の走者1人を許すのみの完璧な投球だった。

味方のバックアップも大きかった。「いつもチームメートが自分の頑張る姿を見ていてくれる。この試合は自分を引き立てることをモチベーションにしようと言ってくれた」。六回に2安打と味方の失策で2失点を喫したが、降板した七回まで毎回の10奪三振。最後にベンチで涙を流しながら、同期や後輩に感謝した。

日本ハム、阪神など3球団が視察する中での好投。「この日の結果はドラフトの順位に直結すると思って投げた。きょうは100点満点。何も思い残すことなく大学野球を終えられた」。後は26日のドラフト会議を待つだけだ。これまで7球団が視察に訪れた。「不安な気持ちが大きいが、指名してもらえたらどこでも行きたい」と話しつつ、高校の後輩、片山楽生（3年）にも注目が集まっていることに触れ、「白樺出身で初の指名が2人ともされればうれしいですね」。将来の先輩後輩の豪腕対決も夢見る。

試合後はドラフト候補同士が仲良く記念撮影。（左から）河村説人、伊藤大海

2人ともリストに

日本ハム・白井康勝スカウトの話 河村は真っすぐのキレがあり、カットボールも相手に的を絞らせていなかった。自分のペースで投げられている。リーグ戦からいい感じできている。伊藤は指に掛かったボールはいいものがあった。2人ともリストには入っている。

プロ志望届 片山（白樺高）竹谷（帯北高）も

日本高校野球連盟と全日本大学野球連盟は12日、プロ野球ドラフト会議（26日）で選手が指名対象となるためのプロ志望届を締め切り、高校生216人、大学生158人の計374人が提出。昨年の246人を大きく上回った。

高校生では150キロを超える直球が武器の愛知・中京大中京の高橋宏斗投手らが提出。2年生エースとして昨年の春、夏の甲子園大会で4強入りした兵庫・明石商の中森俊介、福岡・福岡大大濠の本格派右腕、山下舜平大両投手も届け出た。

大学生では早大の最速155キロ左腕、早川隆久、苫小牧駒大の伊藤大海両投手や、強打として注目される近大の佐藤輝明、中大の牧秀悟らが提出した。

十勝関係では星槎道都大の河村説人投手（白樺学園高出）の他、高校生で白樺学園高の片山楽生投手、帯北高の竹谷佳将投手が届け出た。

帯大谷2年

池田貫禄V

複は宇佐見兄弟制す

勝毎杯全十勝高校秋季バド

【男子1部シングルス・決勝】安定したプレーでストレート勝ちして貫禄を見せた帯大谷の池田侑輝

バドミントンの第53回十勝毎日新聞社杯争奪全十勝高校秋季大会（高体連十勝支部、十勝バドミントン協会主催）が9月26、27の両日、芽室町総合体育館と帯広の森体育館で行われた。男子1部シングルス決勝は池田侑輝（帯大谷2年）が、昨年覇者の砂原泰斗（同）を2―0で破り、同ダブルスは宇佐見慈・宇佐見慧（同）の双子ペアが初制覇した。女子1部シングルスは濱下亜美（帯大谷）が1年生女王に輝き、同ダブルスは上野稜佳・佐藤柚夕組（同2年）が優勝した。（北雅貴、大野篤志）

ジュニア日本代表狙い上へ

1月の全国高校選抜大会北北海道予選会で上級生を押しのけて頂点に立った池田侑輝が、決勝でストレート勝ちして貫禄を見せた。

第1ゲームは自由自在にシャトルを操った。力強いジャンピングスマッシュを決め、カットで前に落とし、相手のプッシュにも反応の良いレシーブで空いているスペースに返した。

第2ゲームは後半に点差を詰められたものの、ヘアピンなどネット際へのショットを織り交ぜて押し切った。「スマッシュはいつもよりスピードが出ていた。チャンスに決め切れたのは良かった」と振り返った。

それでも笑顔はない。ファイナルゲームまでもつれた準決勝を踏まえて、「焦って攻め急いだ。決勝もゆとりを持っていろいろな展開をつくり、もっと良い内容で終わりたかった」と反省しきりだった。

自身に厳しいのは上を目指しているからこそ。今年3月の全国高校選抜は、新型コロナウイルスの感染拡大のため中止に。優勝者のみに全国切符が与えられる北北海道予選で、個人戦シングルスだけでなく同ダブルス、団体戦と3冠を達成していただけに悔しさが募った。次は3種目の出場だけでなく、大舞台で活躍してジュニアの日本代表入りを狙う。「精神面で我慢できるようになってきたがミスは多い。しっかりと準備していく」と意欲を見せた。

猛烈な追い上げ 雪辱果たす

宇佐見ペア

○…宇佐見慧・宇佐見慈（ちか）の双子の兄弟が、高校生の大会で初めて頂点に立った。7月下旬の全十勝高校夏季大会決勝で敗れた同校の池田侑輝・岩間琉哉（2年）との再戦。慈は「絶対に優勝すると練習してきた。成果を出したい」と臨み、激戦の末に雪辱を果たした。

1ゲームずつを取り合って迎えた最終ゲームはミスが目立ち7―16と敗色濃厚に。強い球を打つよりも速いタッチで相手を動かしてミスを誘おうと確認し合い、猛烈な勢いで追い上げた。ジュースの末に大逆転で物にした。

高校では今春からダブルスを組む。慧は「2人とも自分で決めようとするプレースタイルだったが、家でも一緒にいる時間が長いので話し合い、動画を見て研究した」と振り返った。慧が前衛で配球を工夫し、甘い返球を慈が後衛で決める形ができつつある。

上野・佐藤組逆転V

「最後は気持ちで」

【女子1部ダブルス決勝】上野稜佳（左）・佐藤柚夕組（帯大谷）は2年生の意地を見せ、後輩ペアに競り勝った

最後は上級生の意地だった。帯大谷の2年生ペア、上野稜佳・佐藤柚夕組と1年生ペア、濱下亜美・高木沙英組との対戦となった決勝は、上野・佐藤組がファイナルにもつれ込む接戦を2―1で逆転勝利。佐藤は「最後は気持ちでした」と熱闘を振り返った。

第1ゲームから取って取られての緊迫した展開。先に11ポイントを奪ったが、終盤の2連続失点などが響き18―21で落とした。「優勝しなきゃという思いが強く、焦って決め急いでしまった」と佐藤。

しかし、「逆に向かっていく側になり、自分たちのプレーを取り戻した」と立て直した。上野も「プレッシャーが無くなり、サーブもいいところに決まり、自信になった」と息を吹き返した。第2ゲームは上野の重たいスマッシュが決まり、佐藤もネット前のプレーに粘りが出て21―10と突き放した。ファイナルゲームは再び1点を奪い合う接戦。それでも18―19から3連続得点で逃げ切った。

上野は「自分がこれまでやってきたことを信じて戦った」とホッとした表情。2人はこれからの戦いを見据え「守備から攻撃に切り替える力を高めていきたい」と意欲を新たにした。

男子1部の上位入賞者

女子1部の上位入賞者

5試合全勝 もっと強い球を

濱下

○…「スマッシュやカットが決まり、相手のショットのコースも予測できた」。全5試合で1ゲームも落とさずに制した濱下亜美は、淡々と振り返った。

帯一中2年の2018年に全国中体連の個人戦ダブルス、翌19年には団体戦と個人戦シングルスに出場した。シングルスでは3回戦まで進みベスト16に。全日本ジュニア選手権の新人の部でもコートに立った実力者だ。左腕からキレのあるショットを放つ。

全十勝高校夏季大会に続く2大会連続制覇。「スピードもまだ遅いしパワーもない。体づくりにも励んで、もっと強い球を打ちたい。フットワークも速くしたい」と貪欲だ。

【女子1部シングルス・決勝】1年生ながら1ゲームも落とさず頂点に立った帯大谷の濱下亜美

勝

【男子】

＜シングルス＞◇1部▽準々決勝
池田侑輝（帯大谷）2―0 川村柊斗（帯大谷）
池田泰輔（帯三条）2―0 岩間琉哉（帯大谷）
瀬藤智史（帯大谷）2―0 宇佐見慈（帯大谷）
砂原泰斗（帯大谷）2―0 越川匠（帯柏葉）
▽5～8位戦
川村 2―0 岩間
宇佐見 2―1 越川
▽7位決定戦
越川 不戦勝 岩間
▽5位決定戦
川村 2―0 宇佐見
▽準決勝
池田侑 2（21―13、21―12、14―21）1 池田泰
砂原 2（21―15、21―15）0 瀬藤
▽3位決定戦
瀬藤 2（21―18、21―8）0 池田泰
▽決勝
池田侑 2（21―15、21―13）0 砂原
◇2部▽準決勝
安富光星（帯北）2―0 堀切琉生（帯北）
佐藤大和（清水）2―0 中川陸（清水）
▽決勝
安富 2（15―13、16―14、12―15）1 佐藤

＜ダブルス＞◇1部▽準々決勝
池田侑輝・岩間琉哉（帯大谷）2―0 山田悠月・白戸優希（帯南商）
越川匠・高橋史玖（帯柏葉）2―0 三好海智・大久保真人（帯大谷）
砂原泰斗・川村柊斗（帯大谷）2―1 関根一誠・及川令穏（帯工）
宇佐見慈・宇佐見慧（帯大谷）2―0 池田泰輔・山田都月（帯三条）
▽5～8位戦
三好・大久保 2―0 山田・白戸
関根・及川 2―1 池田・山田
▽7位決定戦
池田・山田 2―0 山田・白戸
▽5位決定戦
関根・及川 2―0 三好・大久保
▽準決勝
池田・岩間 2（21―11、21―10）0 越川・高橋
宇佐見慈・宇佐見慧 2（21―12、21―18、18―21）1 砂原・川村
▽3位決定戦
越川・高橋 2（21―16、21―18）0 砂原・川村
▽決勝
宇佐見慈・宇佐見慧 2（25―23、21―16、18―21）1 池田・岩間
◇2部▽準決勝
岡田登嗣・上村大耀（鹿追）2―0 手塚琉生・川股春翔（帯北）
小松悠貴・播間志音（清水）2―0 鎌田彪瑠・土谷俊介（帯三条）
▽決勝
岡田・上村 2（15―11、15―12）0 小松・播間

【女子】

＜シングルス＞◇1部▽準々決勝
濱下亜美（帯大谷）2―0 熊谷星来（帯南商）
内田千晴（帯三条）2―0 伊在井あかり（帯緑陽）
上野稜佳（帯大谷）2―0 横濱心南（帯柏葉）
中鉢青空（帯大谷）2―0 道端菜々美（帯大谷）
▽5～8位戦
道端 2―1 伊在井
熊谷 2―0 横濱
▽7位決定戦
横濱 2―0 伊在井
▽5位決定戦
熊谷 2―1 道端
▽準決勝
濱下 2（21―10、21―11）0 内田
上野 2（21―9、18―21、21―15）1 中鉢
▽3位決定戦
内田 2（21―14、21―8）0 中鉢
▽決勝
濱下 2（21―14、21―8）0 上野
◇2部▽準決勝
小山永蓮（帯北）2―0 目黒結愛那（帯柏葉）
荒井美春（本別）2―1 磯部唯（清水）
▽決勝
荒井 2（15―7、15―12）0 小山

＜ダブルス＞◇1部▽準々決勝
上野稜佳・佐藤柚夕（帯大谷）2―0 吉田心音・新井留奈（帯工）
横濱心南・横山朋果（帯柏葉）2―0 藤川愛結・熊谷星来（帯南商）
濱下亜美・高木沙英（帯大谷）2―0 伊東弥那・内田千晴（帯三条）
畏地香菜・高砂美玲（帯緑陽）2―0 道端菜々美・中鉢青空（帯大谷）
▽5～8位戦
藤川・熊谷 2―0 道端・中鉢
伊東・内田 2―1 吉田・新井
▽7位決定戦
吉田・新井 2―0 道端・中鉢
▽5位決定戦
伊東・内田 2―1 藤川・熊谷
▽準決勝
上野・佐藤 2（21―18、13―21、21―12）1 横濱・横山
濱下・高木 2（21―18、21―14）0 畏地・高砂
▽3位決定戦
畏地・高砂 2（21―13、21―19、15―21）1 横濱・横山
▽決勝
上野・佐藤 2（21―19、21―10、18―21）1 濱下・高木
◇2部▽準決勝
糸井なつ美・七戸咲桜（広尾）2―0 繁田のん・伊東真花（帯緑陽）
鈴木彩花・小山永蓮（帯北）2―0 安孫子真彩・目黒結愛那（帯柏葉）
▽決勝
糸井・七戸 2（15―9、15―13）0 鈴木・小山